

国を守るための力添え



6月28日(金)に養老町在住で大垣養老高等学校長の西脇勝己さんが自衛官募集相談員として委嘱されました。自衛官募集相談員とは、入隊希望者への募集情報の提供や自衛隊募集行事の案内など自衛隊員の確保のために活動し、市町村長と自衛隊と地方協力本部長との連名で委嘱されます。

西脇さんは「戦争をしない世の中を作ることは、国防と教育に共通する理念だと思います。岐阜県内の高校生に国防の大切さを伝えていきたいです」と意気込みを話し、寺西竜哉自衛隊岐阜地方協力本部長は「近年、自衛隊入隊者が減ってきています。岐阜県でも多くの人に自衛隊に興味を持ってもらえるよう活躍を期待しています」と話しました。

備えあれば憂い無し



6月9日(日)に揖斐川養老大巻水防拠点(大巻地内揖斐川右岸堤)において水防訓練を実施しました。町へ大雨洪水警報(浸水害)が発令されたという想定のもと、参加者は2つの班に分かれ、各班で土のうを作成した後、堤防に発生した漏水箇所への対応方法である「月の輪工」、堤防を越水した場合への対応方法である「積土のう工」の2工法を実施しました。また、訓練には国土交通省 中部地方整備局の協力により災害対策車両として照明車と排水ポンプ車が派遣され、展示されました。

水害発生時に迅速に対応し、町民の生命と財産を守るため、消防団員と町職員が協力して訓練に臨み、実践さながらの訓練となりました。

名医 北尾春圃の偉業をたたえて



6月23日(日)に福源寺(室原)において、養老町北尾春圃顕彰会の主催で北尾春圃顕彰法要が行われました。北尾春圃は室原に生まれ、江戸時代の名医として知られた人物です。その腕前は「診察待ちの人々で門前に市場ができるほどであった」「仙台藩が春圃を召し抱えたいと申し出たとき、それを惜しんだ大垣藩主が多くの蔵米を与えてとどませた」といった逸話が残っています。また、名医であるとともに学者でもあり、11種に及ぶ書物を出版しました。

雨のため、会は福源寺の本堂内で行われ、北尾春圃の偉業をたたえとともに、顕彰会の田中頼彦会長からの追悼の詞、参加者一同による読経や焼香、合掌により冥福を祈りました。

観光客の安全を祈願し、100年を迎えた伝統行事



7月1日(月)に養老の滝前広場において、夏の観光シーズンの始まりを告げる養老の滝開き式が町観光協会の主催で開催されました。滝開き式は、1924年(大正13年)から始まり、100年を迎えた伝統行事です。

激しい雨が降る中、養老へ訪れる観光客の安全や招福を祈願して、住職による読経と献香が行われ、山伏姿の修験者が四方に破魔矢を射ました。その後で、護摩壇に火がたかれ、滝の水が酒になったという孝子伝説にちなみ、竹に入れて護摩の火で清められた日本酒「不老長寿の笹酒」が見物客に振る舞われました。式の最後には、養老の滝の滝壺で手筒花火師「瓢」による手筒花火も披露され、観客を魅了しました。